令和６・７年度　豊島区教育委員会　研究開発指定校

研究主題

# 協働的な学びの中で、児童がより主体的に学習に取り組むための授業づくり

## ～ 日々の授業改善を通して ～

## はじめに

豊島区立豊成小学校　校長　堀谷　　援

本校では令和６・７年度豊島区教育委員会研究開発指定校として「協働的な学びの中で、児童がより主体的に学習に取り組むための授業づくり～日々の授業改善を通して～」を研究主題に教員の授業力向上に関する取組について研究を進めてまいりました。

私たちの目の前にいる子供たちは毎日毎日、これでもかという程「成長したい」と本能的に願い沢山の経験を積んでいます。我々教育に携わる者は、成長を願う子供たちを何よりも、誰よりも大切にしなくてはなりません。授業力を向上させることは教師の本分であり、研究をすることは子供たちの願いに応えるための当たり前の行為です。それが子供たちを成長させる肥しとなります。きっと教師であれば誰もが自身の力量を高めたいと思うことでしょう。そのために時間と労力を費やしたいと願うことでしょう。しかしながら、我々を取り巻く社会状況は急速なスピードで変化し、学校現場にも教育課題が山積し、いつしかその至極当然の気力を飲み込んでしまいます。本研究はその忘れかけそうな教師の当たり前の想いを大切にする実践の記録でもあります。子供と共に育つ教師、研究を通じて育つ教師、その一端をご覧いただけますと幸いです。

結びに、本研究により本校教員に成長の機会をいただきました講師の皆様、豊島区教育委員会事務局の皆様に感謝申し上げます。

# 令和６・７年度　豊島区立豊成小学校　研究構想図

**学校教育目標**

人権尊重の精神を心に刻み、地球規模で物事を考え、コミュニケーション能力を伸ばし、心身ともに強くたくましく生きる児童を育てる。

〇(ほ)本気の学び　〇(う)美しい心　〇(せ)世界に広がる　〇(い)いっぱいの夢

**目指す学校像**

教育目標の実現を図りつつ、児童にとって、教職員にとって「安心して成長できる学校」、そして、保護者および地域の方にとって通わせてよかった、あってよかったと思える学校づくりを目指す。

**研究主題**

**協働的な学びの中で、児童がより主体的に学習に取り組むための授業づくり**
**～日々の授業改善を通して～**

**研究仮説**

さらに児童が主体的に学習に取り組むための授業づくりを教師が意識して実践していくことで、児童はより主体的に学び、自己解決力や思考力・表現力を身に付けるだろう。

**目指す児童像**

**より主体的に学習に取り組み、夢中になって課題を自己解決していける児童**

**研究の手だて**

OJTを活用した教員同士の授業改善／児童の主体性を引き出す授業づくり

・板書の工夫　・ICTの活用　・主体性を引き出す単元構成　・導入の工夫　・発問と適切な声かけ
・基本的な授業の流れの確立　・児童のよさを認め伸ばす指導観　・心理的安全性のある学級づくり
・お互いに授業を見合いながら改善していく意識

**児童の実態**

・素直に主体的に学習へ取り組める。
・課題解決力、表現力に課題が見られる。
・自己肯定感が低く、自信をもって活動できる児童が少ない。

**教師の思い**

・教師同士お互いの実践を知り、指導を改善していきたい。
・授業だけでなく、学校全体の取組で児童を育てていきたい。
・児童にとっても教師にとっても有益な「研究」にしたい。
・児童の課題をどう改善していくかではなく、良さをどのようにして伸ばすかという点に着目することで教師も楽しめる研究にしたい。

## Ａ分科会　研究の歩み

### 分科会テーマ
# 「主体性を引き出すための導入の工夫」

Ａ分科会では、教材や本時の学習との出会わせ方に課題が挙がった。児童が主体的に学習に取り組むためには、導入で課題意識をもたせることが重要である。そのために終末での振り返りやまとめにつながるような発問を意図的に構成し、児童が夢中になって課題に取り組めるような魅力的な導入の工夫を検討してきた。これは、児童が目指す児童像「より主体的に学習に取り組み、夢中になって課題を自己解決していける姿」につなげるための基盤になると考え実践してきた。

### ＜今年度の実践について＞

**7/9　4－1 特別の教科 道徳「いっしょにあそばない」友情、信頼**

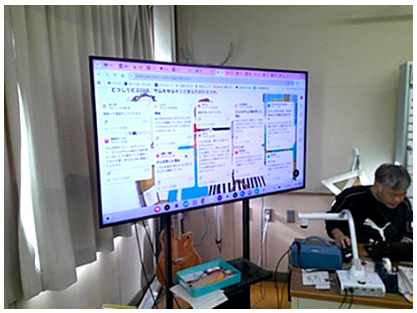
・視覚的に分かりやすい資料を活用した、より主体性を引き出すための導入の工夫をした。
・事前アンケートをもとにした道徳的価値に迫る導入の工夫をした。

〇導入で挿絵、児童アンケートの両方を活用したことで児童の主体性はより高まった。
〇ペアでの対話の時に「それは何でですか」「どうしてですか」という教師の声かけが話せない子のヒントになっていた。また、グループでの対話の中で、いいなと思った意見を取り入れるようにしたことがよかった。
△導入のアンケートや挿絵は主体性を引き出すためには有効だったが、展開・まとめにつながっていなかった。
△切り返しの発問をもっとしてもよかった。またどんな発問が適切か、精選をしていくことが必要だった。

**11/28　5－1 特別の教科 道徳「ブランコ乗りとピエロ」相互理解、寛容**

・Google formによる事前アンケートをもとにした道徳的価値に迫る導入の工夫をした。
→1学期の実践をもとに、より終末・振り返りとの繋がりを意識して発問や活動を組み立てた
・ICTを活用して、児童がより内容項目に迫るための導入の工夫をした。
→アンケート、教材文、ふりかえり・まとめをスライドにまとめ、視覚的にも理解が深まる工夫をした。

〇導入のアンケートを終末でも活用することで、導入と振り返りとのつながりがあった。また、アンケートの提示が教材文から自己を見つめるための切り替えスイッチになっていた。
〇学級の実態を踏まえ、グループでの役割演技に取り組むことで、安心して積極的に発言する児童が増えた。
△Padletを活用したことで、考えを見合うことができるよさはあったが、さらに児童同士の交流があるとよかった。



## 分科会テーマ
# 「児童が見通しをもって主体的に学習できる授業の流れ」

Ｂ分科会では、授業が教師主導の学習になりやすく、児童が学習の見通しをもった主体的な学びにつながりにくいことから、学習の流れが課題として挙がった。児童が見通しをもち主体的に学習していくためには、学習の流れや学習の仕方を理解することが重要である。そのため、児童自身が学習の仕方を理解し、自分たちで学習を進めていけるような授業の流れを検討してきた。そして、その流れでの学習を積み重ねることが、目指す児童像に繋がっていくと考え、実践を重ねてきた。実践を重ねる中で、改めて学習との出会わせ方・導入の大切さも課題に挙がり、児童が目的意識をもって学ぶことができるような効果的な導入についても検討してきた。

## ＜今年度の実践について＞

### 7/1　3－1 理科「音のふしぎ」

・「①問題作り②予想・仮説③実験・観察④考察⑤結論」という学習の流れを明示した。
・予想と実験の結び付け。「予想通りならこうなるはず」と児童が見通しをもって実験に取り組めるようにした。

〇導入で実験の仕方を明示したり、自分たちで決めた役割分担を確認したりすることで、一人一人が学習の流れを理解し、見通しをもって実験、考察することができていた。
〇実験の結果から新しい疑問が生まれ、次の学習の「①問題作り②予想・仮説③実験・観察④考察⑤結論」という流れにスムーズに繋がった。
△実験結果を共有するときに、「シャラシャラ」や「ふたまではねた」など曖昧な表現が児童から出てきたが、それを他の児童が言い換えることで共通のイメージをもっともてるようにできるとよかった。(どのくらい、何cmくらいなど)
△実験結果を全体で共有するときに、実験の動画や写真を使うのか、表にまとめて伝えるのかなど、児童が選択できるようにしておくとよかった。

### 11/26　３年 算数 習熟度別指導「小数」

・「①問題②めあて③結果の見通し(方法・結果) ④考え(自力解決) ⑤共有・発表⑥まとめ」という学習の流れを明示した。
・学習方法と考えを共有する方法を児童に考えさせることで、見通しをもって学習に取り組めるようにした。

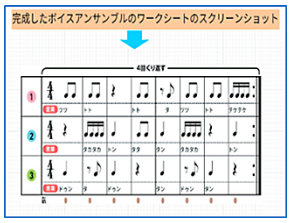
〇実物を提示する導入としたことで、児童が自分たちの言葉で問題を作り、主体的に関わることができた。
〇学習内容や考えを共有する方法を児童に考えさせることで、児童が見通しをもって主体的に学習することができる学習環境づくりができていた。
△全体発表の時間が「5分」と短く、全体検討場面をさらに充実させていくとよかった。
△計算処理上の説明が多く、なぜそのような考えで求めることができるのかを考えている児童が少なかった。なぜそのような考え方で計算ができるのかをもう少し確認しておくとよかった。

## Ｃ分科会　研究の歩み

### 分科会テーマ
# 「授業づくりの基本の流れ・話合い活動の指導」

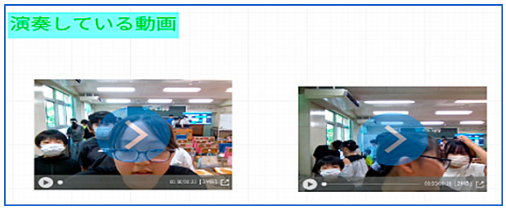
C分科会では、基本的な授業の流れの設定と話合い活動の指導に課題が挙がった。主体的に学習に取り組む姿を引き出すためには、見通しをもつことができ、わかりやすい授業展開をデザインすることが重要であると考えた。また、話合い活動における協働的な学びをより効果的にして充実させるためには、授業のねらいや児童の実態などから、話合い活動の視点を明確に設定することが重要である。また、導入・展開・終末と授業を進める中での教師行動（発問、指導等）、話合い活動の指導内容を検討しながら、授業改善を図ってきた。

### ＜今年度の実践について＞




**7/16　6－2 音楽「いろいろな音色を感じ取ろう」**
**教材「ボイスアンサンブル」**

・話話合い活動が活発になるようなグループ編成をした。1グループあたりの人数を３～４人として、一人ひとりが自分の役割を果たせるようにした。
・どの児童もすすんで音楽活動に取り組めるように、リズムを選択する音楽づくりソフトを使用する工夫した。




〇デジタルのワークシートを活用することで、グループ内での意見交換が活発になり、どの児童もすすんで音楽活動に参加することができた。
〇導入で前時の振り返りや演奏を撮影した動画を学級全体で視聴し、その良さを話し合ったことにより、前時での学びを本時に生かすことができたグループが多くあった。
△ICT機器を使った活動はどの児童にも取り組みやすかったが、活動を細かく区切って、活動内容をより明確にしていく工夫が必要であった。
△グループ活動で発言が少ない児童への教師の働きかけが不十分だったため、適切な声かけ等、参加を後押しする手だてを検討していく。

**10/29　2－2 国語「そうだんにのってください」**

・誰でもいつでも悩みを投函し、日常と学習活動を結びつけられるように、お悩みボックスを設置した。また、それらの悩みを児童が話題を決める際の材料として活用した。
・授業中や日常での傾聴スキル向上をねらいとして、話合いのポイントを視点としたビンゴカードを作成した。本単元の授業内だけでなく、他の教科等、学校生活全体でも生かした。

〇お悩みボックスを活用することで、学校生活の中で相談事を見付けやすくなり、より自分事として話合いをすることができた。
〇話合いビンゴカードを授業内で継続して活用し、話合いごとに意識すべきことを自己の目標として決め、振り返ることができた。
△学年の系統性を踏まえたうえで、発達段階に応じた話合い活動のねらいを設定することが大切である。
△ビンゴカードを使って、振り返る時間を確保することができなかった。教材研究の段階で指導事項を精査しておく。

## Ｄ分科会　研究の歩み

### 分科会テーマ
# 「全員が主体的に学ぼうとする授業づくり」

Ｄ分科会では、「そもそも主体性とは何か」という教師の捉えから研究を始めた。学習者が主体的に学ぶとき、そこには「なぜ学ぶのか」「どうすれば解決できるのか」という問いが生まれる。この問いを起点とした学びは、知識を一時的に覚えるだけでなく、理解を深め、他の場面でも活用できる力へとつながる。指導者の一方的な教え込みでは、学習内容が受動的なものとなってしまう。本分科会では、学級活動が児童の主体性をより見取りやすい学習であると考え、学級活動を中心に研究を進めてきた。また、学級活動に限らず、その他の教科においても積極的に自分のできることに取り組んだり、他者と協働的に活動したりしようとする児童がいる反面、なかなか意欲的になれず「なんとなく」活動をしている児童が見られる。本分科会では児童の主体的な姿を以下の2点と捉えて授業改善を進めてきた。

①　自分の意見をもつことができる

②　友達に自分の意見を伝えられる

### ＜今年度の実践について＞

**6/17　1－1 学級会「クラス目標を決めよう」**

・自分の意見をもてるように「考えタイム」を確保して、一人ひとりが必ず一つ意見を決める。実態に応じて選択肢を用意して、困ったときには選択肢によって選ぶことができるようにする。

・すべての児童が学級会に参加ができるように、全体共有の前に、ペアでの話合いを取り入れる。

〇自分の考えを全員がもち、ペアの友達に伝えることができた。

〇話合いの進め方を視覚化し、思考が焦点化しやすい環境をつくることができ、児童にとって意見を整理しやすくなった。

△全体での発表に積極的になれない児童がいた。

△教師が子供たちにどのような価値付けをすればよいのか、検討していく必要があった。

**11/27　3－2 学級会「パーティの工夫を決めよう」**

・話合いカードで自分の意見を整理する。自分の意見を書くことによって言語化し、だれでも発表しやすい準備をする。

・個人内評価の観点で児童の頑張りを認め、主体性を高めるために、効果的な価値付けを教師が行っていく。

〇カードにより、自分の意見を積極的に伝えられる児童が多かった。

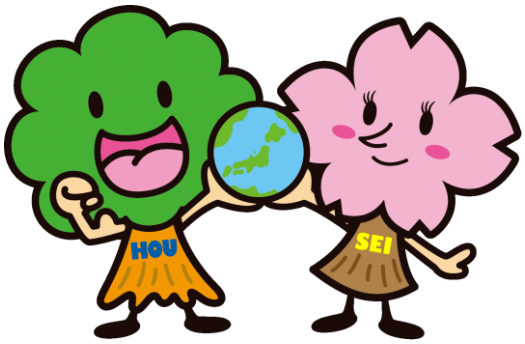
〇教師の声掛けにより、司会が臨機応変に話合いを展開していた。

△話合いの焦点化が不十分で、話合いが活性化しなかった。

△振り返りまでの時間設定を考慮した話合いの流れの計画が必要であった。

| 成　　果 |
|---|
| ・ 普段は見ることのできない、他の先生方の授業を見ることができ、授業改善の意識が高まった。<br>・ 少人数でOJTグループを組んだことで、職員室に話しやすい雰囲気ができ、同僚性が高まった。<br>・ 様々な職層、学年で組むことで新たな知識や発達段階によっての対応の仕方や指導の仕方を幅広く学べた。<br>・ OJTの授業で指導案を作成し、協議内容も共有されたため、授業を見に行けなかったときにもどのような指導・支援をしていたのか学ぶことができた。<br>・ 専科、他学年からいろいろな視点で意見をもらうことができ、系統性も意識することができた。<br>・ 先生方と学び合い、実際に自分のクラスでも同じ指導を行い、児童の主体的な学びにつなげることができた。<br>・ 若手教員に指導・助言することを通して、自己の学びや思考の深まりにも繋がった。 |

| 課　　題 | 今後の展望 |
|---|---|
| ・ 学級経営、生活指導、特別支援児童への対応、保護者対応など、日々の指導の中での困り感（特に若手の先生）や自分自身の課題について話せる場も設定していく必要がある。 | ・ 今年度の実践を生かしつつ、教科指導に特化するのではなく、学校教育目標の達成を目指し、教師の指導力向上という大きな括りの中で研究・研修を進めていく。そのために、教師自身が自己分析を深め、自己の課題をより明確に認識していく。 |
| ・ 学年、職層、教科の専門性などが違うため、テーマが決めにくかった。１年間、グループやテーマが固定されていたので、他グループのOJTでの学びを共有することができるとよかった。 | ・ まず教師が主体的に授業づくりに取り組めるよう、各自の深めたいテーマごとにグルーピングをする。また、OJTの学びを全体で共有する場を設けるようにする。 |
| ・ 研究として、教師・児童の変容を見取ることが難しかった。また、教科指導は継続して取り組む必要があった。 | ・ 学校全体で、育てたい児童の資質・能力の向上に向けて共通理解を図り、評価方法を検討していく。 |




HOUSEI 70th Anniversary

## 御指導をいただいた先生方

**令和６年度**

武蔵野大学教育学部教育学科　特任教授　田　村　正　弘　先生

豊島区教育委員会　指導課指導主事　一　木　喜　美　先生

**令和７年度**

足立区教育委員会　教育指導課　指導主事　八　百　秀　明　先生

品川区立旗台小学校　校長　保土澤　尚　教　先生

## 今年度研究に携わった教職員

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 校　長 | 堀谷　援 | 副校長 | 豊田　崇 | | | | |
| １年１組 | 河野　一朗 | １年２組 | 愛甲　彩乃 | ２年１組 | 日向野　緑 | ２年２組 | 増田　英夫 |
| ３年１組 | 福田　陽子 | ３年２組 | 筒井香央里 | ４年１組 | 小池　翔 | ４年２組 | 松尾隆之介 |
| ５年１組 | 加藤　隆志 | ５年２組 | 外地ゆめ佳 | ５年３組 | 福島　弘樹 | | |
| ６年１組 | 平岡　信之 | ６年２組 | 村里　昂太 | 図　工 | 市村　彩 | 音　楽 | 下村　明子 |
| 算数少人数 | 江崎　弘樹 | 日本語 | 佐藤由以子 | 日本語 | 阿相　俊平 | 養護教諭 | 持田みどり |
| 事　務 | 岸本　竜一 | 校務支援員 | 角館　景子 | 栄養士 | 須貝　未希 | 時間講師 | 鈴木　律子 |
| 時間講師 | 濱田　直子 | 時間講師 | 萩岩由美子 | 特別支援教室専門員 | 藤田　光子 | | |
| 非常勤教員 | 山下　智申 | 図書館司書 | 青木美智子 | スクールサポートスタッフ | 梅原　倫子 | | |
| 学級補助員 | 福留　麻美 | Ｅ・Ａ | 小万　智美 | スクールスキップサポーター | 加茂　洋和 | | |

## おわりに

副校長　豊田　崇

２年間「協働的な学びの中で児童がより主体的に取り組むための授業づくり～日々の授業改善を通して～」をテーマに研究を進め、学年を超えたOJTによる日々の授業改善、児童の主体性を引き出す授業づくりを柱に本テーマに取り組んでまいりました。

毎週、授業改善の視点のOJTを繰り返すことで教職員一人一人の課題が明らかになり、改善のポイントを絞りながら授業改善に励むようになりました。児童が主体的に取り組む場面が増え、教員たちの自信にもつながりました。

本日参加いただいた先生方からいただいた貴重なご意見を参考に今後もより一層研究を深めてまいります。結びに、講師としてご指導いただきました足立区教育委員会教育指導課指導主事　八百　秀明先生、品川区立旗台小学校　校長　保土澤　尚教　先生はじめ、ご指導いただきました諸先生方、豊島区教育委員会の皆様に心より御礼申し上げます。